

令和2年度 徳島県立小松島西高等学校 総括評価表



教育目標 「誠実」「進取」「友愛」の校训のもと、自主・自立の精神と豊かな人間性を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

重点課題 1 基礎学力の定着と主体的に学習に取り組む態度の育成に努め、キャリア教育を推進し、生徒の自己実現の支援を行う。
2 基本的生活習慣の確立を図るとともに、家庭・地域・関係機関等と連携し、組織的な生徒指導を行う。
3 互いの人格を尊重し、支え合う人間関係を築く能力を育てるとともに、いじめを許さない学校づくりを行う。
4 教職員の意識改革と資質向上を図るとともに、学校の組織力を向上させ、保護者や地域から信頼される学校づくりを行う。

重点目標	評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価
学校生活全般を通じて、基本的生活習慣の確立と集団生活の規律向上を図る。 基礎基本の定着を図るとともに、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動する力を育成する。	・登校指導、集会やホームルーム等での指導を通して、あいさつや言葉遣い、基本意識の向上を図る。 ⇒校則を守っている生徒、守れていると評価する教員を前年度より増加させる。 ⇒「課題や提出物を期限までに提出している。」生徒を前年より増加させる。 ⇒「学校生活において挨拶がよくできている。」生徒60%以上 ・基礎学力の底上げによる学習意欲の向上を図り、組織的に生徒の学力向上に取り組む。 ⇒図書の子供一人当たりの貸出冊数5冊以上 ・中学生への広報活動や在学生とその保護者へのICTを活用した情報発信・連携の強化を図る。 ⇒「ホームページは、本校の活動を理解してもらうのに役だっている。」70%以上	⇒生徒：5ポイント↑、教員：23ポイント↑ ⇒前年度94.9%→本年度86.8% ⇒学校評価アンケートでできていると自己評価した生徒 75.5% ⇒生徒一人当たりの貸出冊数 4.9 冊 ⇒役立っていると評価する保護者 76.1%	B
学習習慣を確立し、基礎学力の定着と専門分野の知識・技術の確実な習得を図る。 県内唯一の学科を有する専門高校の強みを生かしながら各分野を担う職業人を育成する。	商業科 ・1年生で金曜7限の補習を昨年並みに確保し、習熟度学習等の導入により学力の向上を図る。 ・各種検定に積極的に取り組ませる。 ⇒全商簿記実務検定1級合格者数を前年より増加させる。 ⇒全商ビジネス文書実務検定合格者数を前年より増加させる。 食物科 ・3年生で週2回、1・2年生で週1回の7限目や長期休業中の特別授業、集中講義を実施する。 ・小テスト・実技テスト等を実施し、授業内容の定着を図る。(考査時の専門科目の目標60点) ⇒家庭科技術検定(食物調理)の合格率100% 食育インストラクターの合格率100% ⇒技術考査の合格率100% ⇒料理コンクール等での入賞を目指す。	夏季休業を短縮し、専門学科指導強化週間を設定するなど授業時数確保に努めた。 ⇒簿記1級：7人→16人 ⇒ビジネス文書1級：30人→25人 ※休業期間の影響で6月受験できず。	A
	生活文化科 ・3年生で水曜・金曜週2回の7限目の補習を昨年度並みに確保し、学習成果の発表の場としてファッションショーを成功させる。 ⇒全員がファッションショー用の衣装2着を製作する。 ・各種検定に積極的に取り組ませる。 ⇒卒業時に家庭科技術検定(被服製作)4・3・2級の合格率100% ⇒色彩検定3級の合格率を前年度より向上させる。	専門学科強化週間等授業時数確保に努めた。 ⇒食物調理2・3年生100% 食育100%、技術考査100% ⇒とくしまde簡単料理コンテスト優秀賞 ⇒令和2年度徳島県若年者技能競技大会洋菓子製造部門銅賞(2年連続入賞)等	A
	福祉科 ・週3回の7限目や長期休業中の集中講義を実施し、1年次から国家試験を見越した指導を行う。 ⇒1単位につき35時間の授業時間を確保する。 ・校外模擬試験の平均得点率60%以上をめざし、成績の分析及び学習の効率化と、学習内容の定着を図る。 ⇒介護福祉士国家試験の合格率90%以上を目指す。	⇒夏季休業短縮期間中の専門学科指導強化週間や各学期終業日前後の集中講義など授業時数を確保した。 ⇒93.8%	A

学校関係者評価（主な意見など）

今年度は4月の入学式直後から5月下旬までの間、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休業期間となったため、例年と比較することはできないなか、大きなマイナスは無く出来ているように思う。学校行事など制約はあると思うが、思い出に残るような体験を通して生徒を成長させてほしい。
専門学科の人気の低下しているように思うが、藍染め等もっとPRしてほしい。四国唯一の学科もあるので、県外からの生徒募集も検討してほしい。

次年度への課題と今後の改善方針

・ファッションラボ等、コロナ禍での取り組みのなか新しい発見もあり、歴史と伝統を継承しつつ、これらの取り組みを広げる。
・県立小中高すべての児童・生徒に1人1台タブレットが配備されたので、HP等を通じて各学科の独自性など情報発信を強化し、保護者・地域への理解促進を図る。
・今年度創立70周年を終えたので、諸規定集の見直しを図る。
・介護実習など校内実習で代替せざるをえず、指導教員の確保が課題である。